

名古屋市守山区 東谷山で希少種タゴガエル発見!

2019年3月24日に希少種シンポジウム2019が名古屋市昭和区の名古屋市高齢者就業支援センターで行われた。筆者はシダ植物担当者として発表した。その後、両生類担当の藤谷武史氏の発表を聞いていて東谷山にタゴガエルがいるのではないかとふと頭をよぎった。

ここ3~4年かけて東谷山の植物を少し調べてきた。東谷山の北側に一つ大きな谷があり、そこには極めて希少な植物が沢山見られ、素晴らしい環境を呈しているのである。



東谷山南東シデコブシの谷 2019.5.13

今まで県内の山を歩いてきて、春先にタゴガエルが谷川でぐぐつ、ぐぐつと鳴く声を何度も聞いており、タゴガエルの生息場所は頭に入っている。その環境が東谷山にあるので、東谷山にもタゴガエルがいても不思議ではないと考えたのである。

出現して鳴き始めるのは3月ではまだ早いので、暖かくなった4~5月頃を見計らって行こうと考えた。

4月27日になって植物の花の写真を撮りがてら、タゴガエルを求めて東谷山に向かった。目的地は北の谷であったが、4月13日に訪れた時に、筆者が日本で初めて記録したキヅキチコグサの分かりやすい根生葉があったので写真を撮っていたが、その株の花がそろそろ咲き始めているのではないかと思い出し、南東のシデコブシの谷へ向かった。しかし、きれいに草刈りがされており、

仕方なく谷を登って、何かほかの花でもないかと谷川へ入ると、なんとタゴガエルの鳴き声が聞こえるではないか。思いもよらずびっくりである。やはりいたんだ。そこで、



キヅキチコグサの根生葉 2019.4.13

水の中へ手を入れかき回して探すと赤茶色のタゴガエルが出てきたが、すばしっこく奥へ逃げられてしまう。さらに落ち葉をかき回すともう一匹現れ、うまく手掴みすることができた。早速ビニール袋に入れて持ち帰る。

その後、植物を求めて北側の谷へ入った。すると、ここでも鳴き声が聞こえる。2~3ヶ所鳴き声を聞くことができたので、1か所につき5~6匹ずつとしても15匹程度は軽くいそうである。



東谷山のタゴガエル 2019.4.27

今まで、調査に入られておらず知られていなかったのが不思議なくらいであるが、名古屋市内にタゴガエルが生息することが確認できたので、取り上げるべき名古屋市の絶滅危惧動物の一つとして報告しておく。

(愛知県環境審議会専門調査委員 村松 正雄)

活動紹介

南山高等・中学校男子部 理科部生物班

昭和区五軒家町6

南山高等・中学校男子部の理科部生物班には、中高生合わせて40人の生徒が所属しています。活動は、生きものの飼育や野外採集、採集した生きものの標本作りなど、一人ひとりが自分のやりたいことに取り組んでいます。生きもの好きな仲間揃いとあって、知識が豊富なのももちろん、それぞれの得意分野を生かしながら、互いに刺激し合って活動に励んでいます。

学校では現在、鯉や金魚、川魚、カメなどを飼育中。最近では、ホタルの飼育も始め、幼虫が500匹ほども。来年の春、成虫になるのを今からとても楽しみにしているそうです。他にも、学校近くの興正寺で野外採集したり、愛知サマーセミナーの一環として、瀬戸市の定光寺へ出向き、クワガタなどを採集したり。さらには、その愛知サマーセミナーで、今年は単人池の生きもの調査を行うなど運営側としても参加。貴重な経験を積むことができました。

また、春には日岡賀島、夏は長野県・安曇野で合宿を

行い、その土地の自然を感じながら、生態調査にも励んでいます。

こうした日々の成果は、文化祭を中心に、なごや生物多様性センターまつりでも発表されてきました。今後の課題としては、飼育管理の見直しや、一つの研究テーマを掲げての活動など、さらに深化した取り組みに挑みたいと意気込んでいます。



カメ籠をつくって単人池に設置

単人池に設置するカメ籠づくり(愛知サマーセミナーでの1コマ)

合宿(安曇野)

掲示板

特定外来生物

「クビアカツヤカミキリ」が名古屋市内で初めて確認されました

中国などが原産で、幼虫がサクラやウメ、モモ、スモモなどを食害し枯らしてしまう「クビアカツヤカミキリ」が、今年6月下旬に確認されました。

国内では、平成24年の愛知県海部地域を皮切りに、関東、関西の7都府県で分布が確認されていましたが、名古屋飛ばしとはならなかったようです。

市内の分布は南部から南西部にかけて点在しており(より広範な調査を継続中)、繁殖力が非常に強いことから被害の拡大が懸念されます。

秋季は、幼虫が幹の内部からフラスと呼ばれる木くずと糞の混合物を大量に排出していますので、そのような樹木を見かけたら、なごや生物多様性センターへ情報をお寄せください。



フラスはゴマを薄切りにしたような木くずが、ひき肉状に固まっていることが多く、幹に付着したり根元に積もってたりします。

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
(地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

名古屋公式ウェブサイト
http://www.city.nagoya.jp/

なごや生物多様性センター 検索

なごや生物多様性保全活動協議会
http://www.bdnagoya.jp

こちらからアクセスできます



生きものシンフォニーのバックナンバーは、名古屋公式ウェブサイトでご覧いただけます。

なごや生物多様性センター

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

令和元年9月
28号



特集

身近な自然の大切さを学んだよ!

なごや生物多様性サマースクール

2019

7月20日(土)



翠松園緑地の昆虫探し
講師:二ツ池の自然と緑を守る会

7月20日(土)



竹林調査と水鉄砲作り
講師:花水緑の会(大高竹の会)

7月21日(日)



身近な木と友だちになろう&標本をつくろう
講師:相生山緑地自然観察会

7月21日(日)



昆虫生息調査
講師:荒池ふるさとクラブ

7月23日(火)



矢田川・香流川の水生生物
講師:名古屋市環境科学調査センター

7月24日(水)



調べてみよう!川の生きもの
講師:NPO法人 日進野菜塾

7月27日(土)



カマキリ、ザリガニ、貝の外来種を探して
講師:NPO法人 なごや東山の森づくりの会

7月29日(月)



巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!
講師:相生山緑地オアシスの森くらぶ

7月31日(水)



池のプランクトンの世界
講師:滋賀県琵琶湖環境科学研究所センター・名古屋市環境科学調査センター

8月3日(土)



甲虫の採集と標本づくり
講師:名古屋昆虫同好会

8月3日(土)



チョウの採集と標本づくり
講師:名古屋昆虫同好会

8月3日(土)



猪高の池の水質調査
講師:名東自然倶楽部

8月3日(土)



外来種の昆虫を捕って駆除しよう
講師:なごや外来種を考える会

8月4日(日)



天白川の水源地を訪ねてみよう
講師:名古屋自然観察会

8月4日(日)



チリメンモンスターを探せ! In 大井
講師:「あいちの海」グリーンマップ

8月7日(水)



大矢川源流域の生き物教室
講師:愛知守山自然の会

CONTENTS

特集 なごや生物多様性サマースクール2019 P1~3

TOPICS なごや生物多様性センターに収集・保管された哺乳類標本を用いた学習支援 P3~4
名古屋市守山区東谷山で希少種タゴガエル発見! P5

活動紹介 南山高等・中学校男子部 理科部生物班 P6

掲示板 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」が名古屋市内で初めて確認されました P6

8月11日(日)



子ども向けワークショップ「野鳥探偵」
講師:日本野鳥の会愛知県支部

なごや生物多様性サマースクール

「なごや生物多様性保全活動協議会」では、今年も子どもたちの夏休み期間に、身近な生きものや自然をテーマとした講座を開催しました。生きもの採集や自然の調査、ものづくりなど、好奇心をかき立てる全17講座の中から2講座をピックアップしてご紹介します。



竹林調査と水鉄砲作り

7月20日(土)

講師 花水緑の会(大高竹の会) 場所 大高緑地(緑区)

緑区にある大高緑地は、豊かな自然に恵まれた広大な公園です。今回は、その中にある竹林へ足を運び、「モウソウチク」と「マダケ」の調査、さらにはその竹を利用した水鉄砲作りを行いました。

当日、子どもたちはグループごとに分かれ、竹林の中へ。講師の先生から測定の方法を教わりながら、竹の高さや太さ、稜の厚み、節の個数、いちばん下の枝の本数を測りながら、それぞれ記録していきました。その際、その枝の本数が1本なら雄竹、2本なら雌竹と、講師から見分け方の説明があると、参加していた親御さんたちも納得の表情に。その後、竹林の気温や地中の温度、照度(竹林の明るさ)

を測定したり、ノートにスケッチするなど、竹の性質をじっくり観察しました。観察が終わり、屋内へ移動すると、『タケノコは1日でどれだけ伸びるか』『1年間でどれだけ伸びるか』など竹クイズも実施。そして、いよいよ水鉄砲作りへ。水を押し出す棒にスポンジを巻き付けたり、その上から布をタコ糸で固定したり。竹筒に合わせて調整するのが難しく、悪戦苦闘しながらも子どもたちは完成させていました。完成するとさっそく試し撃ちをして、水鉄砲の使い心地を体感。最初は、水を押し出すのに力がいったものの、次第に順調に発射できるなど、出来栄に大満足。竹について楽しく学ぶ機会となりました。

水鉄砲作り
夢中!

2019 天白川の水源地を訪ねてみよう

8月4日(日)

講師 名古屋自然観察会 場所 岩藤川(日進市)

日進市から名古屋市、そして伊勢湾に注ぐ「天白川」。その水源地の一つである日進市の岩藤川を訪ね、どんな生きものが棲んでいるかを調査しました。

調査は、河岸の下流側にタモを固定して足で追い込む「ガサガサ」という方法で実施。子どもたちは、草むらを狙いながら次々と生きものを捕まえると、「これは何ですか?」と興味津々に質問していました。また、講師から「魚がヤケドしないように、触るときは必ず手を冷やして」と呼びかけると、親御さんたちもビックリ!!基本の大切さに感嘆の声をあげていました。



その後は、さらに上流へ移動し、調査を繰り返しました。調査した2ヵ所で見られたのは、アメリカザリガニやカワムツ、オニヤンマのヤゴなど。また、最初の場所では、ウシガエルのオタマジャクシやヒメタイコウチ、次の場所ではヨシノボリやカワニナ、ヌマエビ、さらにはサワガニなど、違う生きものを発見。外来生物もいましたが、岩藤川には豊富な生きものが棲んでいることが分かりました。採集した生きものの解説もあり、参加者らは「種類や特徴までも教えてもらったから、とても勉強になりました」など、親子で生きものについて深く学ぶ時間を過ごしました。

TOPICS

なごや生物多様性センターに収集・保管された哺乳類標本を用いた学習支援

当センターには、哺乳類や虫類などの多くの動物が集められ、標本として保管されています。哺乳類の標本の中心となっているのは、名古屋市内で外来種対策のために捕獲された「アライグマ *Procyon lotor* (国の特定外来生物)」と「ハクビシン *Paguma larvata* (愛知県の条例公表種)」です。これらの動物は、体の大きさ、繁殖や年齢といった生物学的情報を得るために解剖された後、最終的には骨や毛皮などを残すための「標本」となります。当センターでは、これら2種の哺乳類を中心に、動物やその標本を使った体験型の学習支援を行い、市民が身近な生き物に対して関心を高める機会を提供しています。具体的な活動としては、例年春頃に、アライグマなどを解剖して、その手順を学ぶという解剖教室を開催しています。また、既に保管されている

標本を用いて、参加者が標本を直接観察したり、触れたりすることの出来る出張展示や出前授業も定期的に行っています。今回は、今年度に行ったこれら2つの活動の概要について報告したいと思います。

(1) 大学生を対象とした解剖教室

2019年5月19日の10~16時に、センター2階の作業室で、名城大学の「野生動物生態研究会」に所属する学生13名を対象に、アライグマとハクビシンの比較解剖を行いました。解剖が未経験な学生11名については、2~3人で1組となり、各動物を1頭以上解剖してもらいました。また、解剖経験のある2名の学生は、これを手助けするための要員として

活動してもらいました。解剖に先立ち、まず動物の外観を観察して雌雄の判別や異常の有無を確認し、個体情報(捕獲日・場所など)とともに記録用紙に記入してもらいました。その後、外部形態計測(体重や体の長さなどの測定)を行い(写真1)、開胸・開腹して心臓などの主要な臓器や生殖器を摘出し、重量の計測や観察を行いました。また、DNA解析用の組織片と頭部を採取し、前者はエタノールで固定して液浸標本とし、後者は後日に晒骨して頭骨標本としました(写真2)。

教室に参加した学生の感想は、「最初は臭いに戸惑ったが、徐々に慣れて、じっくり動物を観察することが出来た」、「同じ中型の哺乳類でも、内臓の大きさに違いがあることに驚いた」、「哺乳類の体の仕組みについて興味がわいた」など、肯定的なものが多いのが特徴でした。過去には、この活動をきっかけに、解剖や標本作成を継続して行う学生や、大学の卒業研究の一環として取り組む学生も出てきています。これを読んで「解剖や標本作成に興味があった!」と思ったあなたは、まずはセンターにご一報ください。



写真1

アライグマの体長を計測しているところ



写真2

解剖したアライグマの筋組織の液浸標本(左)と頭骨標本(右)

(2) 小学生を対象とした「出前授業」

2019年6月4日に、名古屋市立白沢小学校(守山区)で小学3年生85名および教員3名を対象に、「生物多様性と

なごやの生き物」という題名で、1時間ほどの出前授業を行いました。会場となった教室には、前列のスクリーンの脇に、哺乳類の骨や毛皮の標本を展示する一角を設けました(写真3)。この時に準備した動物は、守山区およびその近隣に生息している哺乳類で、在来種の「ホンダタヌキ *Nyctereutes procyonoides*」、「アカギツネ *Vulpes vulpes*」、「ニホンイノシシ *Sus scrofa*」、「ニホンカモシカ *Capricornis crispus*」に加えて、外来種の「アライグマ」、「ハクビシン」、「シベリアイタチ *Mustela sibirica*」、「ヌートリア *Myocastor coypus*」の計8種でした(一部の標本については、愛知学院大学歯学部歯科資料展示室からお借りしました)。最初に、スライドを使って生物多様性や外来種問題について、動画やクイズを交えながら説明しました。その後、実際に標本を見せながら、何の動物のものなのかを推測してもらい、その結果を動物の生態を交えて解説しました。最後には、標本を間近で観察し(希望者には触れてもらって)、学んだ動物についての理解を深めてもらいました。

講座を振り返って驚いたことは、「外来種」という用語や、動物の存在については知っている生徒が多いことでした。これは動物を扱ったテレビ番組等のメディアを通じて知識を得ているためのようなものでした。その一方で、観察した動物が自分たちの比較的身近な地域に生息していることを認識している参加者は、生徒、教員ともに稀でした。そのため、今回の標本展示も含めた講座内容は、そのことに気づいてもらう良いきっかけとなったと思われました。

以上の活動を経験して、標本を用いた学習支援は、生き物に対する意識の向上に有効な手段の一つであると感じました。近々、当センターの玄関にも標本を展示するミニコーナーが出来る予定です。皆さんも、お立ち寄りの際は、ぜひご覧になってください。

(生物多様性市民協働推進員 曾根啓子)



写真3

「出前授業」で展示した哺乳類の骨や毛皮の標本